

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0170503627), 法人名 (株式会社 ケーサポート), 事業所名 (グループホーム コケモモの家 1階), 所在地 (札幌市豊平区西岡4条3丁目8番5号), 自己評価作成日 (令和3年1月10日), 評価結果市町村受理日 (令和3年2月24日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kih_on=true&JigvoCd=0170503627-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年1月27日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の皆様が得意な事を活かし、ホーム内で役割を持つことで生活の場であることを感じてもらえるよう支援しています。入居者同士、なじみの関係づくりができるよう職員が意図的に関わっています。ホーム職員だけではなく町内会やご家族との交流を図ることで入居者の方が安心して生活できる環境づくりに努めています。入居者の皆様には職員も環境の一部と捉え、お一人おひとりの意向の把握や状況・状態に合わせた対応で入居者の皆様が主体となり生活できるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は住宅地が多い豊平区西岡地区にあり、周囲には至近距離で大型ショッピングセンターやコンビニ、病院等が立ち並び、バス路線も複数あり、また地下鉄からも徒歩圏内という、住宅地だが生活にのりやすい環境下に立地している。設立は平成17年で母体法人は市内と近郊を含め4か所です。グループホームを運営しており、毎月管理者会議が行われ、質の高い連携を図っている。当事業所の優秀な点のひとつは、きめ細かい、温かみのあるサービスの実施を挙げたい。当事業所はお便りを発行しているが、利用者一人ひとりの様子を写真と共に綴ったお手紙も各家族宛に発送しており、運営推進会議の月には全体のお便り、個人向けのお手紙、推進会議録と角度を違えた3種類の報告が家族宛に届けられている。また看取りを希望される利用者には、最期を飾る服はどれにしようか等についても日々の様子から聞き取っており、利用者一人ひとりのニーズに合わせた対応の結果だと思われる。運営推進会議でも、行事や事故・ヒヤリハットの報告、食料の調達から主食や副食の置き方まで、また嚥下障害や排泄等々のケアについても注意事項を含め説明し、認知症の理解促進に努めている。開設から15年が経過し、利用者本位の介護を目指す当事業所に今後も大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and staff/user interactions.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍で朝礼での唱和は中止していますが、各フロアに掲示し理念の共有を図り、意識して支援しています。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作り所内に掲示し、またミーティング等を通じて話し合い、その理念を職員間で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナ禍の影響で町内会行事等は中止になっていたため参加出来ませんでしたが、ホーム周辺では積極的に挨拶をしています。また周年記念など、町内会の方達への挨拶の機会としています。	開設から15年を経過し、地域との交流も親密さを増している。町内会とは祭りやイベントで直接的に触れ合う機会を持っており、日常的な関係が維持されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来られたご家族や、電話での問い合わせ時に相談事にお答えしたり、ホームでの支援内容についてお話しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況や運営についても報告をしています。議事録は各フロアに提示し、議事録もご家族の他町内会の方へも送付しています。	運営推進会議は包括や地域代表、家族の参加により2ヶ月毎に定期開催している。議案も行事や日々の様子、事故やヒヤリハットも報告し、好評を得ている。また毎回テーマを決めて説明し、認知症の啓蒙に役立たせている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	提出書類については電話での報告を行ってから送付をすることで協力関係を築けるよう取り組んでいます。	行政とは、年3回の管理者会議で情報交換や制度の運用等を話し合い、また集団指導や実施指導等々で直接指導を得て、サービス向上に活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各フロア事務室内に掲示をしています。身体拘束廃止委員会の開催や定期的な研修をとおして身体拘束をしないケアの実践をしています。	身体拘束廃止委員会を3ヶ月毎に開催し、現状のケアの確認を行っている。また研修も職員採用時等年2回以上実施し、拘束や虐待、抑制のない適切なケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修の実施の他、認知症の理解を深めることで利用者の状態を把握したり、言葉使いに配慮し不適切なケアにならないよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍の影響で外部研修の参加はできませんでしたが、ご家族から相談があった場合は必要な情報を提供し活用できるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、文書と口頭で説明を行っています。都度質問や疑問点がないか確認をしながら行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中らご本人の思いをくみ取るよう努めています。ご家族の来訪時や電話連絡の際は普段の生活の様子を報告しながら意見、要望を聞いています。	お便りやお手紙を発行・お届けし、利用者の日常生活を伝えている。また来訪時には、要望や苦情を言いやすい環境を作り、サービス向上に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアミーティングやリーダー会議などで職員が意見や提案できる場を設けています。必要な案件は本社会議で報告をし業務改善や働きやすい環境づくりに努めています。	何でも何時でも話が出来る職場になるように、日頃から風通しの良い関係を築いており、提案があれば本社会議で報告したり、事業所でも介護現場等で検討し、よりよいサービスになるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は本社会議で各フロアの人事や各職員の勤務状況について報告を受けています。問題点や課題点については都度対応し、働きやすい職場の環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加した職員には、研修手当や受講料の助成をしています。外部の研修へ参加した職員や定期研修担当職員などでフロアミーティングで他職員へ内容を報告してもらい知識を深めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区会議やケア連絡会などの勉強会や交流会には職員にも参加してもらいますが、今年度はコロナ禍の影響で難しかったです。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	入居初期は不安のないように寄り添い、会話や表情から困りごとがないか思いをくみ取り傾聴するよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学時や契約時に困り事や不安がないか聞いています。入居されてからも、ご家族の来訪時には、日ごろの報告をすることで要望や相談ごとが話しやすい環境づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の問い合わせや見学時にお伺いした困りごとや不安な事に対して、現在のサービス支援だけでなくその方に必要と思われるサービスの情報もお伝えするようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできる事、できない事の見極めを行い、調理や清掃などの家事を一緒に行っています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や電話時にはご本人の現状を報告し、ご家族とともに必要な支援について考えています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でなじみの場所への外出はできませんでしたが、電話や手紙などで関係が途切れないよう支援しています。	利用者一人ひとりの生活習慣に沿った支援を目指しており、各人の思い出の味を訪ねたり、懐かしい地を巡ったり、普段からの風景を大切に、馴染みの関係が途切れないように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひとり一人の性格や感情の変化を理解しながら利用者同士がかかわりあえるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も希望があれば、広報の送付をさせていただきます。退去後もご家族がホームに立ち寄ってください。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行動や表情、会話の中からご本人の思いをくみ取るよう支援しています。ご家族からの情報も大切にし、本人本位の支援ができるよう努めています。	毎日の生活を支援していく中から、本人の思いや希望、嫌な事好きな事を把握し職員で共有しながら、本人の意向に沿えるように努めている。確認できた意向は、ケアプランに落とし実践に活かしている。	利用者の思いを大切にケアの実践を高く評価したい。今後については利用者の最終段階について、定期的に本人からの聞き取り・記録を行い、より本人本位のケアとなるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族ご本人にもお伺いしています。普段の会話や行動からも情報の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や状態、経過観察した情報を個別の記録や日報などに記入する事で職員間で情報を共有し現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の表情や口調から楽しい事、嬉しい事の把握に努めています。ご家族からの意見・要望の他、主治医や相談員などの意見も参考にし介護計画書へ反映しています。	本人、家族の意見や要望、医師及び訪問看護ステーションの看護師からの指導や助言、カンファレンスやモニタリングを通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。また病変が生じた際は即応し、現状に沿った介護計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状態、経過観察した情報を個別の記録や日報などに記入する事で職員間で情報を共有し現状の把握に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の様子の他ケアプランのサービス内容について記入するよう努めています。記録の内容を参考にプランの見直しや評価に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため外出や来訪者との接触が難しかったが、訪問理美容や訪問歯科などつながりが持てるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、ご家族・ご本人が希望する主治医に決定しています。良好な関係を築けるよう情報提供に努め健康管理を行っています。また、ご本人やご家族の希望に沿って主治医の変更などの相談にも乗っています。	かかりつけ医は本人家族の要望を優先し、担当医と連携を密にして適切な医療となるよう支援している。主治医を含め訪問看護ステーションの看護師が日々健康管理に努め、安心できる医療となるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護STの看護師が来ています。介護職員は看護師に情報を伝えやすいように申し送り表を作成しています。そのほか気になったことがある場合は都度相談をし適切な対応ができるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要な支援について継続ができるよう伝えていきます。早期退院できるようご家族とも連携を図り退院に向けての調整を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や見学時にはホームでできる対応や医療機関、ご家族との連携についてご説明させていただいています。重度化が予測される場合は早い段階でご家族と終末期ケアについて相談させていただき、意向や要望を確認し、最善の対応ができるよう努めています。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら指針を職員間で共有し、ターミナルケアを実践している。現状ではここ数年で3人の利用者の看取りを実施した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フロアミーティングで心肺蘇生のシュミレーションを行っています。急変や事故発生時についてもフローチャートやマニュアルですぐに確認できるようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練時には入居者を安全に避難できるように訓練を行っています。火災時には通報時に町内会の代表の方にも連絡がいくようになっていきます。	火災による避難訓練は消防署の指導の下、年に2回実施しており、非常用緊急連絡網に地域住民を載せるなど町内会の協力も得ながら、安心できる体制で不意の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導や体調面支援内容については配慮に欠けた言葉使いや態度にならないよう配慮しています。	接遇は介護の要であり、プライバシーの確保や人格の尊重を旨として介護に臨み、研修や会議でも尊厳を忘れないようにと話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意図的に質問をしたり、選択できる場面作りをするよう心掛けています。思いを表現しづらい入居者の方にも声をかけ表情などで自己決定できるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	普段の言動や表情から一日をどのように過ごしたいのか希望や思いをくみ取るよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる限りご本人が着替えを選べるよう支援しています。意思表示が苦手な方は、好みの色やデザインなどご家族からの情報や昔の写真などからも推察しおしゃれを楽しめるよう配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方達にとってなじみの食材や得意メニューを献立に取り入れています。それぞれの得意な事ができるよう調理や後片付けの声掛けを行い参加して頂いています。	利用者の好みを考慮しながら献立をたて、食事を提供している。調理や盛り付け等の過程で利用者の参加も得ながら楽しい食卓になるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分などの摂取量を記録しており栄養の摂取に努めています。嚥下や口腔内の状態に合わせてキザミ食やミキサー食など形態を変えて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けや見守りを行い口腔ケアを実施しています。ご自身で磨けない方はお手伝いさせて頂き、口腔内の状況に合わせて訪問歯科や歯科衛生士による口腔ケアも取り入れています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記録してそれぞれの排泄パターンの把握に努めています。表情や言動からも排泄のサインを見逃さないようにすることでトイレでの排泄ができるよう支援しています。	排泄はトイレで行うことを心がけ、個々人の特性を理解・共有し、礼節に富んだ声掛けや誘導になるよう努め、自然な無理のない排泄支援になるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況に合わせて、牛乳やオリゴ糖を使用した飲料の提供やテレビ体操など運動する機会づくりで便秘対策の支援をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前にはご本人の予定をお聞きして入りたい時間に入浴できるよう支援しています。体調に合わせて清拭や足浴等を行い清潔の保持に努めています。	入浴日を固定したり、順番で入れたりする事を排し、お湯を毎日お風呂に入れて、いつでも誰でも入浴できる様臨んでおり、週に2回以上は入浴できるように入浴支援に取り組んでいる。拒否者には無理強いすることなく、時間や日にちを変えながら楽しく入浴できる様対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は居室やリビングソファなど、ひとり一人過ごしやすい場所で休息を取られています。就寝時には、居室の温度や明るさなどに配慮し良眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方されたときは薬説明書の確認をしています。服薬後の経過で変化に気付けるよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や会話などからそれぞれの入居者の得意な事を知り、ホーム内での家事活動に取り込み役割を持った生活ができるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	美容院や墓参りなどご家族にも協力をしてもらい出かけられるよう支援していましたが現在コロナ禍の影響で外出は制限されています。	その日の天候や希望に沿って、平岡樹芸センターや開拓の村、滝野すずらん公園や羊が丘展望台など普段は行けないような場所でも戸外に出かけられるよう支援をしている。また、外気浴等が気軽にできる取り組みを職員間で話し合い、多く実践している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で管理・使用できる方には行っていただいています。お小遣い帳の記入をして頂くことで不安にならないよう配慮しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りができるよう一緒に文章を考えたり、携帯電話所持の方には都度使用方法を伝え自由にご家族と連絡ができるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾り付けも入居者の方達と行っています。室温や温度管理も都度状況に合わせて行っています。	共用空間には、季節毎の飾りつけや行事参加の写真の掲示などで生活感や季節感を考慮し、居心地良く過ごせるよう工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さ等の不快さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチを配置しています。一人になりたいときや気の合う方同士でお話できるような環境づくりをしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は使い慣れた家具や写真を持ってきていただいています。ご本人の状態に合わせて家具の配置を変えるなどして安心して過ごせるようにしています。	居室には、昔馴染みの家財や小物類がそれぞれの思うままの配置で置かれており、落ち着いた雰囲気が感じられ、ゆっくりと過ごせるよう工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示をわかり易くしたり、食器棚の収納場所など表示する事で意欲的に家事参加できるよう工夫しています。		